逗子の未来協議会レポート (平成29年9月)

No.10

発行:逗子市 経営企画部 企画課企画係

「逗子の未来協議会」とは(仮称)逗子市自治基本条例の検討を行うワークショップのことです。

第10回ワークショップテーマは「地域」

第10回目の逗子の未来協議会では、「まちづくりと市民・地域②~地域の視点から考えるまちづくり~」をテーマに話し合いました。

まず自分自身の振り返りとして「地域との関わり度チェック」を行った後、自分の住んでいる地域ごと

のグループで、地域のことを客観的に考えるための ケーススタディに取り組みました。

その後、「地域との関わり度チェック」の点数によってグループを替え、「地域の活動で大事にすること」 について話し合いました。

ケーススタディ「人生相談」へのアドバイス



フェイスブックに動画あり

地域のことを客観的に考えるため、ケーススタディとして3つの「人生相談」について、グループごとにそれぞれの相談に対するアドバイスを話し合いました。発表いただいたアドバイスをいくつがご紹介します。

ケースA (30代女性) 班長になったら ストレスに… 「問題をほかの役員へぶつけてみてはどうでしょうか。 あたなが思っていることを、 提案することで、 町内会は変わっていきます。 」

「町内会は社会との接点です。しがらみも ありますが、世代を超えたコミュニケーショ ン、楽しんでください。」



「若いときは町内会の必要性を感じないかもしれませんが、 年を取るにつれ必要になってきます。」

「町内会も柔軟に変わっていくことが必要。忙しい若い世代と、定年後の時間のある世代とで上手に役割分担を考えていかないといけない。|

ケースB (40代女性) 町内会って 必要ですか?

ケースC (60代男性) 定年後の 地域デビュー 「頭でばかり考えず、掃除など体を 使った地域活動から始めてみてはい かがでしょう。」

「スポーツを通じて、知り合いを増やすのもいいかもしれません。」



Facebookもチェック



※ワークショップでは相談者の参考動画を上映しました。 動画は現在、フェイスブックで公開中です。 「逗子の未来協議会」 フェイスブックベージは こちらから→



グループワーク「地域の活動をするうえで、大事なことは何だろう?」

グループワークでは、地域やコミュニティの活動をするうえで、大事なことについて話し合い、行政にはできない「地域だからこそできる」まちづくりについて意見を交換しました。





<コミュニケーション、挨拶>

- ・隣近所のコミュニケーションを深くする。
- ・向こう三軒両隣的な付き合い方を行う。
- ・周囲の顔が見える関係。会釈だけでも構わない。 顔が見えることから始まり、そこから生まれてくるもの があるのではないか。
- ・日ごろからの人間関係、コミュニティづくり、挨拶が 大事だと思う。
- ・同世代同士のつながりから始める。

参加者の皆さんがアンケートに記入した、地域の活動で大事にすること、大切にしたい地域に対する考えや価値観、地域での活動をより活発にするための方法や仕組みなどについて、いくつかご紹介します。

<安全・安心、楽しさ>

- ・安全で安心な、お互いに信頼関係を構築できる地域にしたい。
- ・楽しんでやれるような、気負いしない良い意味でのゆるいつながり。
- ・皆が楽しく生活するためのツール。

<役割分担>

- ・無理なくそれぞれの役割で関われる、参加できることが大事。
- ・役割分担して、身体不自由な自分でも参加できる仕組みを作ってほしい。

<システム・仕組みづくり>

- ・発言力の弱い人の意見を取り入れるシステムづくり が最重要課題。
- ・やらされた感を解消することが大切。そのために は、楽しめる仕組みづくりが必要。
- ※ 意見等は、市ホームページでご覧いただけます。

参加者インタビュー 「私にとって地域とは・・・」



■ フェイスブックに動画あり

あたなにとって、「地域」とは何ですか?ワークショップ終了後に、参加者にインタビューをしました。

<市民の方に聞いてみました>



住む人が主体的・ 日常的に活動す る地理的なエリア だと思います。

<市職員に聞いてみました>



家族のもう少し大きな単位。大きな家族だといいなと思います。

ご協力ありがとうございました。

広報『みんなで考えよう・みんなでつくろう! (仮称) 自治基本条例』

逗子の未来協議会 レポート No.10 (平成29年9月)

発行:逗子市経営企画部企画課企画係

電話:046-873-1111(代表)/ファクス:046-873-4520/E-mail:kikaku@city.zushi.lg.jp